

令和元年度 向陽台高等学校 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校長

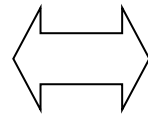
学校創立の理念 良識ある立派な市民の育成と高い技能や専門性を持った人材の育成。
教育目標 人づくり 夢や志を持ち、命の大切さ、人の温かさや痛みのわかる人間の育成
学力向上 ともに学び、それぞれの学力と可能性を伸ばす
進路実現のための教育 自己実現ができ、社会でたくましく生きる力を育む

学校要覧
建学の精神 ①良識ある立派な市民の育成 ②時代の変化に対処できる優秀な人材の育成
教育目標 社会で生きる力を育む。市民として社会に貢献できる確かな人物の育成、豊かな知性の育成、自己の未来デザインの形成と進路実現をめざした教育を実践する。
教育方針 時代と共に歩み、時代の要請と社会の変化に対応する斬新で独自性に富んだ、時代を創っていく教育をめざす。
「時代は人が造る。人は学んで造られる。絶えず学び、絶えず行え」
「自己改革なくして成長なし」

学校の使命 「いつでもどこでも誰でも」の学びのかたちを創り、失敗をも「自立」の過程とする「自立へのレッスン」の場としての学校

重点目標

- 1 生徒一人ひとりのニーズに応じた学力向上と進路指導
- 2 本人や保護者の思いに寄り添い自己実現を図る学校づくり
- 3 広域通信制・単位制の学校として、より質の高い教育の提供と実践の発信



目指す生徒像
「自他の個性を認め合い、自ら一步前に進める人物」

目指す学校像
○変化を怖れず挑戦する学校
○安全で安心できる学校
○地域に開かれた信頼される学校

2 中期的目標 平成 29 年度～31 年度（令和元年度）

I 学校経営組織の一体感とフレキシブルな組織づくりによる「向陽台ロマン」の実現

- (1) 権限と責任意識の明確化
①ラインとプロジェクトを活用した組織的経営
②機能的・一体的・迅速的な組織づくり ○令和二年度に向けた分掌組織の改編・業務等のより効率的な進め方
③会議の段階化と情報の階層化
- (2) 危機意識の共有
①未来づくりへの参画 ○外的環境の変化による生徒の減少に対応した各コースの見直しと学校ビジョンの作成・実施
②基礎データの共有と意識化
- (3) 共同体意識の醸成
①学校伝統の共有
②数値化した課題共有・情報共有、学校自己評価等の活用
- (4) 通信制高校の特色と役割の共有
①個性化、国際化、情報化、多様化の時代の教育への挑戦 ○向陽台ロマンの 22 世紀の通信制教育
②技能連携制度に基づく技能連携校との関係の強化と発信

II 本校の未来を託すための人材の発想に基づく人材育成

- (1) マネジメント力の育成・発展
①信頼をベースにした役割期待の明確化 ○ラインとプロジェクトの活用 →プロジェクトチームでの各課題検討、実施
- (2) 建設的議論による学校づくり
①敵味方論の克服・感情人事の払拭 ○居がいの醸成
②戦略会議 ○参画意識の醸成と将来設計の共有
- (3) 未来志向の支援
①チャレンジ力とプラス思考の積極的評価・支援
②若手・ミドルリーダーの積極的登用による人材育成・マネジメント力の育成
- (4) 指導力・授業力の重視
①教科指導力とカウンセリングマインド

III 教育力・専門性を高めて多様なニーズに応じた向陽台の「学校力量」を高める

- (1) 実践力
①個に応じたペースでの指導法 ○積み上げを基礎としたキャリア教育の確立 ○eラーニングの積極的活用 ○丁寧な懇談と距離感
②5期制の特色を活かした支援法 ○短期の単位取得による成功体験と積み上げ学習
- (2) ICT活用能力
①学校環境の無線 LAN 化による環境整備 ○無線ラン環境による自学自習、自己管理、自己表現力の育成と伸長→ 7号棟での ICT化
- (3) キャリア形成の指導力
①大学進学と就職に向けた進路指導
- (4) コミュニケーション力
①社会的スキルの指導
- (5) 個別指導への対応力
①随時の補習等個に応じた柔軟な指導体制
- (6) 就労支援への力
①就職率の向上 ○無業（フリーター、アルバイト）から就労に向けたキャリア教育カリキュラムの作成 →キャリア教育プロジェクト（○）
- (7) 課題研究・授業力の向上
①研究授業の継続と授業アンケート ○技能連携校との研究会・進路講座の内容充実

IV 発信力・ICT 活用を積極的に高め、本校の特徴を活かした「22 世紀の教育への挑戦」を広め認知度を高める

- (1) 社会的意義・役割の意識化
①地域一体地域循環還元型教育 ○技能連携校協業モデル事業の着実な進展 松阪モデルの提示と推進 令和3年4月開校予定（○）
②共生教育の推進 ○ソサエティ5 社会の多様化・個性化・情報化・AI 活用の新たな教育の推進 →令和二年度からの学校経営計画中期目標へ
○共生教育推進モデル事業の実施 ○インクルーシブ教育の推進
③マスコミ・府内公立学校の通信制イメージへの意識改革
- (2) 使命の共有・向陽台の源流
①校内意識の醸成・価値の共有
②地域の信頼 ○教室確保による必修教科並びに学校設定教科の充実、キャリア教育の充実、多様なニーズに応じた教育の実現
→高卒資格取得の学校から特色ある学校への脱皮、キャリア教育の充実、出口のしっかりした学校、学び直しとチャレンジ精神あふれる学校
- (3) 実践事例のまとめ、多様化・個性化の中での学習指導・キャリア教育
①全国・文科省・府内への積極的発信 ○通信の可能性・インクルーシブ教育等の 22 世紀型の教育への挑戦・向陽台ロマンの実現 →HP の充実
- (4) 連携事業の推進・技能連携校等組織的関係の充実
①技能連携校との組織的構造的連携構築 ○地域一体地域循環還元型教育モデル事業 →地域・行政との連携モデル事業（○）
②市町村連携モデル事業 ○地域一体地域循環還元型教育をもとに関係事業所等との協業モデル→不登校等発達障害生徒対象の松阪モデル事業実施（○）
③ガンバアカデミーとの連携した人間教育と基礎学力向上（○）
④不登校生徒支援の NPO 法人との連携 ○不登校対応モデル教育への支援→義務教育段階での連携基準作成、カウンセリングノウハウの共有（△）
⑤NPO 法人等とのキャリア教育の模索 ○通信制高校の多様な生徒のニーズに応じたキャリア教育の試み→モデルカリキュラム作成（○）
⑥民間事業所との学力向上事業 ○難関大学進学と基礎学力保障への取り組み方向の検討（△）
⑦大学等研究機関との連携模索 ○22 世紀型教育における通信制高校の可能性の検討（△）

3 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

自己評価アンケート結果と分析	向陽台高等学校 技能連携校協議会からの意見
<p>○生徒アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校型コース生徒（166人）と新卒コース生徒（189人）、計355人で9月に実施。また、卒業予定生徒301人に、2020年1月に実施。合計656人対象。 <p>○教職員アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員76人に関して、9月に実施。 <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年までは「私は、学校へ行くのが楽しい」という質問項目で、約70%の生徒が「楽しい」と回答。今回は質問を「私は本校での学校生活に満足している」と変更。約85%の生徒が「満足している」と回答している。 ・「本校には、自分が学びたいと思える講座が多数ある」と回答した生徒は、約76%（前年比：プラス10%）。 <p>※前年より、数値はアップ。 多彩・多様な講座を提供することが、「個別最適化」や、「楽しさ」への道筋。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、「本校には、他校にない特色ある教育活動が行われている」と回答した教員は、約80%（前年比：マイナス6%）。また、同じ質問に対する生徒の回答は約82%（前年比：プラス3%）。 ・さらに、「本校の授業は、私にとってわかりやすい」と回答した生徒は、約81%（前年比：プラス8%）と生徒からの評価は高くなっている。 <p>【次年度のedtech推進に向けての課題】 ↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本校には、授業の教え方に様々な工夫をしている先生が多い」と回答した生徒は、約74%（前年比：マイナス1%）。 ・『『わかる授業』を目指し、授業の組み立て等の準備を十分にしている』と回答した教員は、約67%（前年比：マイナス18%）と、極端に教員側の自己評価が低下している。 ・生徒側の満足度の高さに比して、教員側の自己評価の低さが現れた結果となった。これは、ICT教育環境に慣れた生徒たちが年々増加している現状で教員のICT機器習熟度やICT環境の整備への課題が考えられる。理事長方針を受けて、クラッシーやズームの活用等を周知してきたが、教職員のedtech活用をより具体的に計画的に図っていく必要がある。次年度確実に進める課題として不退転で進めていく。 	<p>向陽台高等学校技能連携校協議会は、向陽台高等学校と技能連携校総体の教育において、相互発展と運営の円滑化を推進するとともに、連携による高等学校教育の振興を目的に設置された会です。</p> <p><自己評価アンケート結果と分析に対して></p> <p>中期的目標のひとつとして、多様なニーズに応じた向陽台の「学校力量」を高めることを掲げており、これは通信単位制高校共通のテーマと認識しています。</p> <p>自己評価分析において、生徒の「満足度や選択性に関する数値」が前年度より大幅に改善している点は、評価できます。</p> <p>しかし、「授業の工夫や準備」に関しては、生徒・教員の意識は他の項目における高い満足度に比べて、改善の余地を残しています。特にICTを活用した「授業の工夫や準備」に関しては、入学してくる生徒の期待値に沿うような取り組みが必要でしょう。ICTの利活用において、今後教員側の自己評価が高くなるような研修、研究授業等の実施が望まれます。</p> <p>さらに、教職員アンケートにおける、「建学の精神」および「教育理念・方針」の浸透度の低さにおいても、前年度より数値が悪化しており、大きな課題であると認識しています。</p> <p>この反省点と課題について、学校と教職員一人ひとりが謙虚に受け止め、課題解決に向けて、一つ一つ新たな取組を実践し、向陽台高校の「学校力量」を上げていただき、各技能連携校に還元していただけることを期待しています。</p>

4 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>「向陽台ロマン」の実現 学校組織の一体感とフレキシブルな組織づくりによる</p>	<p>(1)権限と責任意識の明確化 ア 次年度に向けた分掌組織の改編・業務等のより効率的な進め方 イ 教頭補佐による分掌組織の把握と整理 ウ 事務室との役割分担の明確化 (2)危機意識の共有 エ 技能連携校との関係強化 オ 新卒生のニーズを踏まえたコースの再編と充実に向けた展開 カ キャリア教育の視点からみたコースのあり方 (3)共同体意識の醸成 キ 向陽台組織力の向上 ク 向陽台教育の意義の共有化 ク 向陽台の源流等本校の位置づけの確認 (4)通信制高校の特色と役割の共有 コ 特色ある講座の設置推進と発信 サ 多様な生徒への指導対応のヒントをまとめるとともに向陽台ロマンの周知と情報共有 シ 技能連携校の実践発信</p>	<p>(1) ア 各分掌業務内容の整理と業務実施の企画・進行管理型への移行に向けた委員会方式等の実施及び生徒保健部における組織的な生徒指導体制と関係機関等とのネットワークの充実 イ 教務部における時代に応じた受講登録体制の検討と教務事務システムのリニューアル案作成 ウ 事務室担当との連携強化 (2) エ 副読本、e-ラーニングの充実に向けた取り組みと生徒交流の実施 オ 戦略会議・運営会議での今後の方向で新卒コースの新たなあり方に基づく案の作成と実施。 カ 進路に対応したモデルカリキュラム例の作成 (3) キ 組織のラインとプロジェクトを活かした転編入生徒の減少に対応したコース等の学校ビジョンの作成・実施 ク 各コース特色と充実方策の検討・進路サポートコースの充実による進学実績向上・自宅学習コース等の位置づけ等検討・登校型コースの今後のあり方と指導方法の検討 ケ 通信制高校を取り巻く情報を職員会議や研修報告等で提供 (4) コ 特色ある講座、講師の積極的な活用を図るとともにソサエティ5の時代に応じた講座の開講(ロボット、ドローン等) サ 目指す生徒像の育成に向けた指導体制・指導理念の共有と合理的配慮委員会を中心に日常の気づきに関するエピソード記録メモの作成 シ 技能連携校相互の生徒及び本校生徒との交流を進めるとともに教育内容の発信を進める</p>	<p>(1) ア 学校評価「役割認識」「意見の尊重」達成度60%以上と分掌業務担当一覧の確認整理 イ 教務事務システム原案作成 ウ 学校評価「事務室との協力」達成度60% (2) エ 技能連携協議会役員会評価満足度70% オ 学校評価「教育方針・理念」での達成度50%以上と新卒コースの充実 カ プロジェクトチーム等からの提言等を反映したモデルカリキュラムの作成 (3) キ 学校評価「建学の精神」での達成度50%以上 ク 本校の役割の認識共有と特色の発信力の度合い ケ 学校評価「情報共有、研修等の役割」達成度70% (4) コ 特色ある講座開講数 サ 配慮事項とエピソードを集めたインクルーシブ教育を見据えた小冊子作成「指導ヒント集」 シ 高等専修学校の活動を本校HP等で発信 ス 協働した副読本作成やe-ラーニング教材等の作成</p>	<p>「おおむねあてはまる」%提示 ア 「職場での役割自覚」57%、「相互の意見尊重」67%であった。組織で対応する意識が反映。さらに分掌業務の整理が必要(○) イ 教務事務システム改修プロジェクトを委託会社と実施(◎) ウ 事務室35%(×)役割分担と協力が課題 エ 生徒リーダー研修、学び直しe-ラーニング教材、副読本作成、生徒リーダー研修や本校との交流を進めるなど新たな取り組みを提示し、実行できた(◎) オ 43%(△)多様なニーズに応じて新卒コースで2日～5日とした(○) カ キャリア教育プロジェクトでアイデアをまとめ、次年度に向け手帳作成はできたが、カリキュラムは検討(○) キ 「建学の精神」の浸透は38%(×)60周年の対応が必要 ク 「ニーズに応えた教育活動」88%「特色ある教育活動」86%(◎)向陽台としての取り組みを指導者が共有できていることを示している。 ケ 計画的研修64%、外部研修の参加55%であったが、伝えて情報共有については33%となり、職員会議での報告の取り組み等更に機会を設ける工夫が必要(△) コ 特色ある講座としてドローン、ロボット、恋文講座等生徒のニーズを引き出す講座を開講するとともに定員も満たした。(◎) シ 本校HPで総合体育大会、生徒リーダー研修等の活動を紹介できた。今後も継続的に実施することで技能連携校協議会役員会で賛同を得た(◎) ス 副読本の作成(英語、数学、国語)を技能連携校の教員と協力して作成できた。また、視聴教材並びに学び直しのe-ラーニング教材を作成した(◎)</p>

<p>人材育成 本校の未来を託すための人材に基づく</p>	<p>(1) マネジメント力の育成・発展 ア 令和3年度に向けた向陽台の今後の運営組織体制と生徒特性に応じた人材の確保 イ ラインとプロジェクトの活用</p> <p>(2) 建設的議論による学校づくり ウ 若手・中堅が活性化できる体制 エ 居がいとやりがいの醸成</p> <p>(3) 未来志向の支援 オ プラス思考の積極的評価と支援</p> <p>(4) 指導力・授業力の重視 カ 後継人材の育成 キ 教科指導力とカウンセリングマインド</p>	<p>(1) ア 教職員の役割分担と連携のあり方の検討と危機への対応策の共有 イ プロジェクトチームによる研修等の実施</p> <p>(2) ウ 年代のバランスに応じた人材の確保と学校課題の進捗状況と外的危機への対応の共有 エ ニーズに応じた各コースの運営・編成等に対応した指導の日常的な意見交換</p> <p>(3) (4) オ 学校改革と教育実践でのチャレンジの奨励と支援 カ 人材育成 OnTheJob の考えの定着 キ ベテランと若手の連携推進によりチームによる対応を図ると共にカウンセリングマインドの共有と指導内容の引き継ぎ資料の作成とノウハウの見える化による業務手順共有</p>	<p>(1) (2) ア 向陽台人事5か年計画による計画的な教員採用 イ 危機意識の共有と学校課題の配付と周知 ウ 各コースの特徴の明確化と発信 学校評価「計画的研修」での達成度40%以上 学校評価「伝える機会」での達成度40%以上</p> <p>(3) (4) エ 若手チーフの増加・企画提示の推進 オ 研究助成や事業補助等の獲得や実践発表 カ 若手職員が各分掌等での全体業務を理解した体制の確立 キ 各教科での引き継ぎ資料</p>	<p>ア 新たな就業規則の動向もあり、今年度は採用保留となった。5か年計画への理解を得た(○)</p> <p>イ 職員会議等での資料提示や教員から進路や通信制への講話ができた(○)</p> <p>ウ コース制の見直しを理事長方針を受けて対応。大学進学に向けたコースの設置案作成(○) 「計画的研修」64%、「伝える機会」33%であった。</p> <p>エ 理事長への提案等発信やプロジェクトを通じた企画への参加(○)</p> <p>オ 未来の教室や文科省課題研究への応募等行うが採択には至らず(△)</p> <p>カ 若手の育成が課題(△) 若手の人材の確保が急務</p> <p>キ 引き継ぎ資料の意識喚起(△)</p>
<p>教育力・専門性を高めて多様なニーズに応じた向陽台の「学校力量」を高める</p>	<p>(1) ICT活用能力 ア ICT等を活用した向陽台の教育実践力の向上 イ 向陽台指導実践の発信 ウ 学校環境の無線ラン化</p> <p>(2) 実践力 エ 5期制の特色を活かした支援方法 オ 大学入試改革への対応と指導方法の検討</p> <p>(3) キャリア形成の指導力 カ キャリア教育・キャリア形成の視点からの実践とアイデア共有による学校力量の向上 キ 大学進学と就職に向けた進路指導</p> <p>(4) コミュニケーション力 ク 社会的スキルの指導 ケ 特別な支援の必要な生徒への指導の発信</p> <p>(5) 個別指導への対応力 コ 個に応じた柔軟な指導体制 サ カウンセリング力の育成。支援者としての教員。</p> <p>(6) 就労支援への力 シ 体験型研修等によるキャリア教育力や時代を見据えた教育力の向上</p> <p>(7) 課題研究・授業力の向上 ス 研究授業の継続と授業アンケート セ 技能連携校との研究会・進路講座の内容充実</p>	<p>(2) ア e-ラーニング教材の充実や授業ビデオ作成の推進と「わかりやすい授業づくり」や普段の学校生活での活用方法の検討・活用例の発信 イ フェイスブック等SNSの積極的活用検討と発信 ウ 無線ラン等ICT環境等の整備充実</p> <p>(2) エ インクルーシブ教育をも見据えた授業研究・事例のまとめ推進 オ 大学入試改変に関する情報の整理・活用と指導方法の共有化</p> <p>(3) (4) (5) (6) (7) カ NPO法人等外部関係団体との連携した研修やプロジェクトチームによるアイデアを戦略会議・運営委員会で検討 キャリア教育関係の研修実施 キ 大学入試への対応策を各教科で検討・共有 ク 社会的スキル教材の整理 ケ 発達障害的な生徒等のエピソード記録を集積しインクルーシブ教育の観点で整理</p> <p>セ 授業研究の推進と情報提供の充実</p>	<p>(1) ア 教材やビデオの作成と活用状況 イ 環境整備の状況 学校評価「施設設備の長期的な計画」での達成度45% ウ 次期学園中長期計画で向陽台のICT活用策定</p> <p>(2) エ 特別な支援・配慮も含めた指導の気づき、エピソード記録等の集積とヒント集をまとめる オ 大学入試への対応マニュアルの作成</p> <p>(3) (4) (5) (6) (7) カ 社会的スキル教材のまとめ 学校評価「指導の工夫・改善」での達成度90% キ 研修の開催と進路指導体制の確立 ク 学校評価「系統的なキャリア指導」での達成度55% ケ キャリア教育に関する指針 コ 指導マニュアルの作成</p> <p>サ 技能連携校役員協議会での研究会等に関する評価 満足度60%</p>	<p>ア 学び直しのe-ラーニング教材の作成(○)</p> <p>イ 「施設設備の長期的な計画」35%であった。学園の中長期計画の提示が必要。生徒の施設設備の環境評価は高い結果を得ている。 ウ 向陽台のICT活用は進んだが、学園全体のICT活用計画次の課題(×)</p> <p>エ 生徒情報交換会はまとめもありきちんと行われているが、エピソード記録としてのまとめは今後の課題となる(△)</p> <p>オ 進路部を中心に情報提供を行い、教員間での情報共有が進む(○)</p> <p>カ 「実態を踏まえた工夫改善」は81%であった。生徒の授業への評価は高い、また、わかる授業への取り組みは85%であった。社会的スキル教材のまとめは今後の課題</p> <p>キ・ク・ケ・コ キャリア教育を中心にプロジェクトチームでの研修や教員を講師とした研修を行った。(○) 指針とマニュアル作成は今後の課題</p> <p>サ 研究会等の新たな試みを実施。研究授業を本校で実施した。(○)</p>

<p>発信力・ICT活用を積極的に高め本校の特徴を活かした「22世紀の教育への挑戦」を広め認知度を高める</p>	<p>(1)社会的意義・役割の意識化 ア 地域一体地域循環還元型教育 イ 共生教育の推進 ウ ICT・SNS を活用し向陽台の教育活動の発信力の強化と学び直しとチャレンジ</p> <p>(2)使命の共有・価値の共有 エ 通信制高校のキャリア教育・キャリア形成での発信 オ 教室増設を活用した教育講座充実</p> <p>(3)実践事例のまとめ カ 府内への積極的発信 キ 個性の尊重と才能開花（教育再生実行会議第九次答申）を踏まえた向陽台の教育発信</p> <p>(4)連携事業の推進・技能連携校等組織的関係の充実 ク 技能連携校の教育資源活用と連携 ケ 技能連携校との組織的連携の強化 コ プロ等育成団体との教育提携の推進 サ NPO 法人等との連携及び教育区域の拡大 シ 指定校の獲得と継続への対応・各大学での向陽台の魅力の発信</p>	<p>(1) (4) ア 地域一体地域循環還元型教育と共生教育モデル事業の実施 イ 通信制高校のイメージの意識転換へのネットワーク構築 ウ 共同研究等での向陽台実践の発信と22世紀型教育</p> <p>(2) エ 向陽台キャリア教育案のまとめ作成 オ 増設教室及び他の教室の活用を図る</p> <p>(3) カ 多様化個性化の中での学習指導・キャリア教育の探求へのヒント集 キ 国等の動向を見た向陽台ビジョンの作成と共有</p> <p>(4) ク 技能連携校への校長学校訪問・懇談の随時の実施。 ケ 各技能連携校と現状実態と今後の展望を共有し、経営的観点からのアイデア共有を推進 コ 技能連携校協議会の内容に経営視点を入れ充実させる サ スポーツ、文化に関わる団体等との連携推進と不登校生徒の対応モデルの作成と連携基準の作成 シ 各技能連携校のニーズを踏まえた指定校の獲得</p>	<p>(1) ア 新規事業の実施と通信制高校への理解度向上 イ・ウ 学校評価「特色ある教育」での達成度 85%</p> <p>(2) エ 本校におけるキャリア教育案のまとめ オ 教室増設後の教室活用度と工夫した講座設置数</p> <p>(3) カ 指導ヒント集・学校案内配付ホームページの工夫 学校評価「ホームページ」での達成度 80% キ 講師派遣・研究助成・共同研究等の実施</p> <p>(4) ク・コ 技能連携校協議会の役割拡大と経営的観点での情報提供を進める。また、必要に応じた各理事長・校長との懇談機会の設定を増やす ケ 育友会の状況改善と総合体育祭・総合文化発表会の充実、リーダー研修の発信 サ 松阪市不登校生徒等就労教育モデルの発信 シ 技能連携校のニーズに対応した指定校の獲得</p>	<p>ア 松阪市における各種学校の設置は申請を行う。3月私学審議会で説明（◎） *コロナ感染症のため延期となり令和2年8月25日に説明・募集活動の了解を得た。 また、各研究会や大学との交流が進み、通信制高校への関心を高め、今後も協議を継続。</p> <p>イ・ウ「特色ある教育」86%であり、生徒評価においても「特色ある教育」として高い評価を得ている。</p> <p>エ 引き続き課題である（△）</p> <p>オ 特別講座等学校設定教科としてドローン、ロボット、手紙講座等生徒のニーズに応じた講座を開講した（○）</p> <p>カ「ホームページでの情報公開」77%であった。今年度よりプロジェクトチームによるホームページの内容充実に向け検討し公開予定となった。</p> <p>キ 研究助成の申請を実施したり大学との共同研究を探った（△）</p> <p>ク・コ・ケ 協議会の内容の検討を行った。役員体制等を次年度も引き続き検討していく。育友会の状況はやや改善。行事には本校生徒も参加した。</p> <p>サ 松阪市教委との連携事業として不登校生徒の就労・教育モデルの実施と SNS を活用した教育相談事業を実施、地域活性化に向けた公開講座を次年度実施（◎）</p> <p>シ ニーズ把握も含め今後も引き続き課題（×）</p>
--	---	--	--	--